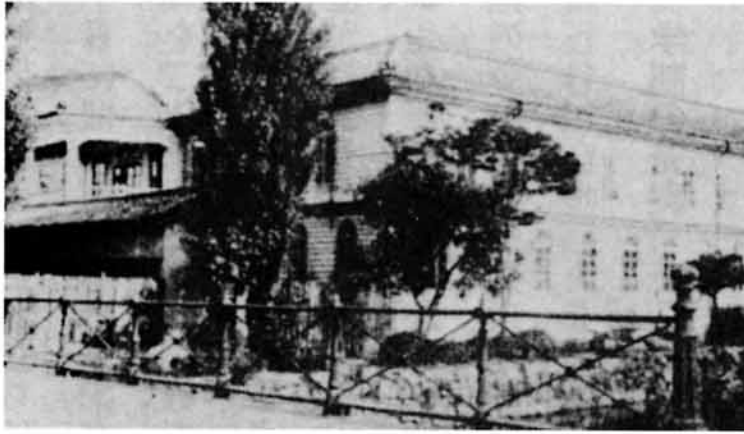


(四) 学制の充実

学制の実施 一八七二年（明治五年）八月、「学制」が發布されて、人口六百人を単位に、小学校が開設されることになりました。費用は、全部住民が

出すことになっていたので、住民たちは負担ふたんにたえきれず、小学校の建設は進みませんでした。



姫路で最初にできた城南小学校

一八七三年（明治六年）六月に姫路では、各所の社寺十数か所を仮校舎として小学校教育を始めました。一八七六年に城南小学校を新築しましたが、これが独立した校舎を使つての小学校教育の初めです。飾磨県では、県令（知事）森岡昌純が、小学校の開設を強くすすめました。一八七五年（明治八年）、国府寺町こうでらに教員伝習所が設置され、その附属小学校として城東小学校を開きました。そして、一

八七九年に校舎を新築して移りました。城東小学校は一八八七年(明治二〇年)には、尋常じんじょう小学校と高等小学校とに分かれ、高等小学校が城東尋常小学校に併へい設せつされました。その後、野里、城北、船場の各小学校ができ、小学校教育は充じゅう実じつしていきました。

中学校と高等学校

「学制」が發布され、一中学校区に一中学校を置くことが決まり、飾磨県では一八七三年(明治六年)十二月、姫路に勸開かんかい、小野に昌しやう明めい、龍野に龍野の三中学校を開設しました。しかし、内容が整わないまま、翌年七月に三校とも廃校になりました。飾磨県は一八七五年八月、国府寺町に教員伝習所をつくり、十一月には小学校教育師範しはん学校と名前を変えました。一八七六年(明治九年)、飾磨県は兵庫県と合併し、姫路にあった師範学校は神戸師範学校に統合されて姿を消しました。

一八七八年八月、加西かさい・神東しんとう・神西しんざい・飾東しきとう・飾西しきさい・揖東いっとうの六郡が連合して姫



明治 42 年落成の姫路中学校

路中学校をつくり、景福寺けいふくの一部を借りて授業を始めましたが、一八八三年に今の東光とうこう中学校のところに新校舎を建てて移りました。

一八八六年に中学校令が公布されると、姫路中学校は翌年四月一日に兵庫県尋常中学校となりました。そして、一八九六年に神戸・豊岡に兵庫県尋常中学校が開設されるまで、兵庫県における唯一ゆいいつの県立中学校でした。

開校したころは、英語・万国史・

数学の教科書に洋書を用い、一八九〇年ごろには、授業にドイツ語が採り入れられたこともありました。生徒の中には英語で日記をつけたり、漢文で紀行文を書く生徒がたくさんいたといわれています。

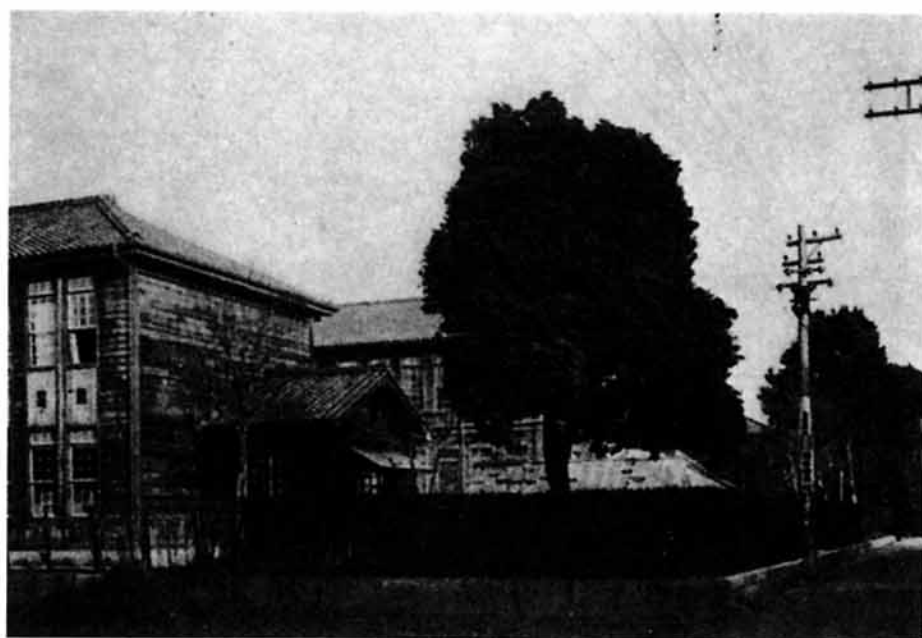
生徒の出身地は、播磨一円で、入学競争率は三倍から五倍で狭い門でした。

この中学校が県立姫路中学校になり、一九〇九年（明治四二年）、城北村（今の北八代）に移転し、戦後の学制改革で、県立姫路西高等学校となりました。

一九〇一年（明治三四年）六月、兵庫県第二師範学校が姫路に開校されました。同年八月に姫路師範学校と改められ、初代校長に野口援太郎を迎えました。

野口校長は、当時の師範学校が軍隊式であると批判し、学生を各先生の自宅に招いて、家庭的な生活を体験させることによって、人格教育を行う書生制度を採用し、愛の教育を実行しました。

一九三六年（昭和十一年）、県が姫路・御影両師範学校を統合して、兵庫県



姫路師範学校の校舎

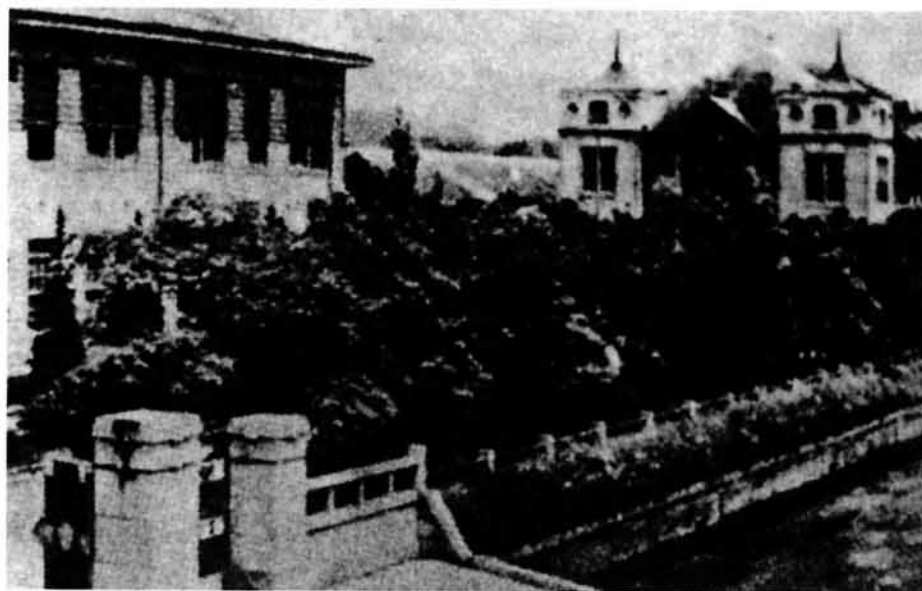
(今は県立姫路工業高等学校の校舎になっている)

師範学校を設置するまで、たくさんの先生を育てました。

一九二四年（大正一三年）には、姫路に官立の姫路高等学校が開設されました。

自由と真理を追究する学生たちの情報が、市民に大きな刺激を与えました。

戦後、教育制度の改革で、国立神戸大学に統合されて、神戸に移っていきました。他の官立高等学校が、全部、国立大学に昇格した



官立姫路高等学校の校舎
(今は県立姫路工業大学の校舎になっている)

のに、姫路だけがそうならなかつたことは、姫路市民にとって大きな損失であり、残念なことです。

女子教育と実業学校　　女子の

中等教育は、一八九三年（明治二六年）に日ノ本女学校が設置されたのが始まりでした。一八九九年（明治三二年）に高等女学校令が公布され、翌年、私立姫路高等女学校が船場本徳寺の寺域内に設置されました。県立姫路高等女学校ができたのは、一九一〇年（明治



明治時代にできた姫路商業学校

四三年）のことでした。

そのころの女学校教育は、良りよう妻賢母さいけんぼを養成することが目的でした。県立姫路高等女学校もまた戦後の学制改革で県立姫路東高等学校になったのです。

また、商業の発達にもなって商業学校の設置をのぞむ声が高くなり、一九一一年（明治四四年）

市立姫路商業学校が開設されました。明治時代に商業学校ができたのは、県下では姫路と神戸の二都市だけでした。今は、県立になっています。

このように、明治から昭和二十年ごろまでの姫路市は、神戸市とならぶ文教

都市として栄え、多くの人材を世の中に送り出しました。戦後、各地に大学がたくさんでき、主要都市には総合大学が設置されましたが、姫路には当時、兵庫県立の姫路工業大学と姫路短期大学、それに私立賢明女子学院短期大学があるだけで、文教都市としての姫路は、大きな遅れをとってしまいました。

こういう状態であったので、姫路市が中心になって、市民ぐるみで大学の誘致運動に力を入れ、姫路獨協大学の設立に成功しました。私立姫路獨協大学は一九八七年（昭和六二年）四月に開校しました。一方、県立姫路短期大学は一九九八年（平成一〇年）から県立姫路工業大学環境人間学部として新しく出発しました。